
飯 > 詩

橘 F 鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮＞ 詩

【Nコード】

N 6 1 5 8 G

【作者名】

橘F鈴

【あらすじ】

こちらでは自由発想でやっていきたいと思っています。なので方向性はとくに定めておらず、どんな作品を載せるか分かりません。きまぐれ更新ですがよろしくです（＜―＞）

【イメージ】

GURENゝ紅蓮ゝ（前書き）

第一回は自作「血族」シリーズをイメージしてできた詩です。

本文だけだと分かりにくいかもしれませんが、後書きに意味を載せました。

【イメージ】

GUREN 紅蓮

紅蓮

その紅い糸は、人と人との交わりを示す血染めの紅色をしている
遥か遠く、もとを辿れば結ばれた糸と糸

その結び目からはじまった

それは無地を彩る、織り成す糸

魂の炎『ほむら』を宿し、そのみが成せる業こそ『綴る』なり

生まれ堕ち、死ぬまで綴られる糸と糸を

ときにかからめ、生まれてくる新たな命よ

愛しき人は、愛しき日々は

ひとつの結び目『かたち』をそこに残す

紅蓮

その紅い糸は繋がっていることを拒まれると
ときに断たれる

ゆえに同じひとつの結び目から派生した糸と糸は

濃く鮮やかな鮮血を撒き散らす

もとを辿れば結ばれた糸と糸

その結び目から派生した

その糸が断たれたとき

断たれた糸は、途切れた糸は

未来を綴れぬ糸屑『かたまり』と化す

紅蓮

その紅い糸は人から人へと繋がる血の縁『ゆかり』なり

紅蓮

紅い糸は断たれこそすれ消せぬ、永久不変の血の証明『あかし』なり

己が綴り、織り成した模様は

過ぎ去りし愛しき日々よ

その紅い糸は結ばれる糸を求め

未来を綴る糸となる

紅蓮

その紅い糸は引力を持ち、強い念が相手を引き寄せる

糸と糸がからみあい、そこに消えない争いの痕跡を残す

紅蓮

その紅い糸は全てが繋がった糸

紅蓮

その紅い糸は人の軌跡を綴る糸

紅蓮

その紅い糸は人の一生を織りあげる糸なり

【イメージ】

GUREN 紅蓮（後書き）

【意味】 糸 生命。その紅い糸 ある血族。糸が綴るもの 人生。

【思考】

小鳥のワルツ（前書き）

三拍子の旋律に乗せて描いた詩です。現実を知ってしまった……こ
とを自然の描写を使用して表現してみました。

【思考】 小鳥のワルツ

小さな四囲かこの中

止まり木の上

一羽の小鳥は、つばさを休め

紺碧の空を眺めながら

“その時”を待つ

雲の切れ間から差し込む光が

見えたら行ける

それが“閃き”という光

見えない四囲かこから解き放たれて飛び立てる

希望の光

苦悩という海原も越えて行ける

飛び出したその先に広がる世界は

果てがなく見えた

どこまで飛び続けても

着地できる場所は見出せずに

そのうちに空は灰色に替わり

そこから抜け出そうとして

頭上に浮かぶ

巨大な雲の上の光をめざし

白く際立つ

上層の明るい空に目が眩み

敢え無く

小鳥は墜落した

そして小鳥は知った

飛べない高さがあることを

それに気付いたとき

やっと止まれる木を見付けた

そしてその枝に止まり

疲れたつばさを休め

次に訪れる

“その時”を待った

小鳥は唄う

閃きが見えた時

小鳥は飛び立つ

焦らずに少しだけ高度を上げて

小鳥は羽ばたく

着地できる場所を探して

【思考】

小鳥のワルツ（後書き）

文字数の関係により記号を多用してごめんなさい < m () m
<

【思考】

あの笑顔をもう一度（前書き）

表情によって形成されたものではなく、表されない心理というものが人にはあると思います。ある時そのことを強く感じ、言葉にされていない部分にある陰りのようなものに胸を強く締め付けられました。内容はその時に心に受けたことを、感じたままに言葉にしたものです。

【思考】

あの笑顔をもう一度

世間は表向きのことばかりを見て判断する

その表情から、その人の胸の裡に潜む闇を読み解くことをしようとし
ない

その背景にある何かを先に見ようとし
ない

目で見て、耳で聞いたことばかりをすぐ真に受ける

語られぬ優しさを世間は評価しない
することができない

最後に帰る場所が、心の拠所となる人のいる場所だったら、違っ
ていたのかもしれない

守るべきものが自分ではなく他になれば、自分をもっと強く律する
ことができたのかもしれない

時間の流れが人の記憶を薄れさせ、色彩を奪っていくだろう

何年後か心が鎮まった時に、活字にしてありのままの真実を語れば
少し気持ちが楽になるかもしれない

真実を包み隠し続けていたら息が詰まってしまふ

苦難に立たされた時こそ、見えてくる何かがあるのかもしれない

純粋な人間が陥穽に足を取られやすい何かがある、この世界にはある気
がする

それを見抜く厳選な目が必要なかもしれない

それを知ることにより、本物の笑顔が作れなくなってしまうのかもしれない

“その世界”でこそ最高に輝ける星が、永遠の曇り空にさらされてしまふことは哀しい
亀裂が入ってしまった^{ダイヤ}宝石は、以前のような輝きを放てなくなってしまうかもしれない
だが、それを新たに研磨して新たな意匠を施せば、また別の輝きを見せることもできるのかもしれない

今までずっと走り続けてきて、休む期間が与えられたのかもしれない
崖の縁に立たされた今
差しのべられた手の主に、心の底に蓄積した何かを解き明かす時が訪れたのかもしれない

【恋愛】

刹月下

青白き月夜の上弦の旋律しるべ

星の瞬き霞む刻、月は静寂を奏でる

彼は水面に映る月の鏡像みなも

傍に寄りて愛でる乙女の指すり抜けて、波紋を揺らす

宵闇の刻

河岸で肩を寄せ合う二つの影

愛の言葉を囁き合う男女

彼は水面に映る月の鏡像

儚きものの喩え

永遠に誓う愛の言葉は、儚きことの喩えに同じ

“儚きもの”は運命に逆らうように乙女を抱き寄せ、二人の距離を埋めたさだめ

漆黒の闇と皓皓たる満月

無数の光の宝石を散りばめた黒衣の魔性

その空から舞い降りた影

そは月下の狩人
乙女の夢に現れし魔性の存在
その心を捕らえた罪深き者

彼を見上げ、乙女は頭上に真昼の月を仰いだ

彼の広い胸に身を預け、その鼓動を聴く

重なる二人の鼓動と微熱を帯びた甘い吐息

過ぎる予感^よ

近くにいて離れていくような感覚

頭上の月を暗雲が覆い隠し、哀しみの予感が乙女の頬を濡らす

彼は運命^{さだめ}を知りながら、真昼の月の下で乙女を愛した

その髪を愛撫する

その涙を接吻が拭う

真昼の沃野に二人は星空を見た

彼は月下の狩人
乙女の心を捕らえた罪深き者

夢へと誘い

瞼を開けた時そこにはいない
束の間の恋の喩え

彼は月下の狩人

“罪深き者”の異名

【カルタ】

あまえじょづかるた（前書き）

意味が違ふのとかも混ぜってます（・・）

【カルタ】

あまえじょうずかるた

『あ』

“愛してる”

ありきたりでも聞きたいな

『か』

かき氷

「まつ赤っかゝ」と舌を出す

『さ』

「桜だよ」

さりげに写メを送ります

『た』

タイプの子

わざと違うの言っちゃった

『な』

長電話

せーのじゃないと切れないの

『は』

初日の出

今年はパリに連れてって？

『ま』

巻き髪に

気付かないから怒っちゃう

『や』

やめちゃうの？

子犬の目して引き止める

『ら』

ランコムの香水薰る

腕からめ

『わ』

「わかんない」

ふりして勉強教わった

『い』

印度カレー

食べてる彼に恋い焦がれ

『き』

昨日から

恋人だよね？ 恥ずかしい

『し』

社長サン良イ人

好キヨ結婚ネ

『ち』

チヨコレート

逆にもらうとうれしいね

『に』

にくじやがの味付け
これでイイ感じ？

『ひ』

一晩中

返事^{メール}来なくてすねてるの

『み』

みのむしの真似して
布団に彼くるむ

『ゆ』

ゆかた着て
デメキン彼におねだりし

『り』

リップグロス
てかりでキスがばれちゃった

『う』

うみほたる
夜景見たいの
うみほたる

『く』

クリスマス
今年のサンタ何くれる？

『す』

すずめばち

二度目はないの
浮気もね

『つ』

ツンデレと甘えるあたし
どっち好き？

『ぬ』

ヌード雑誌^{ほん}

見えないところに隠してね

【思考 恋愛】

恋愛の無法者

あの娘は悪女だったけど本当は良い娘だった

あの娘は悪女だったけど嫌いになれなかった

キーキー声でうざがる女友達もいたけど、早起きしてクラスメートの彼にお弁当を作る、尽くす女の見本みたいな少女

かわいいあの娘は株を上げ、悪女のイメージは拭われる

女友達はさらに嫉妬した

世間でいう良い人の基準でなんだろう

男女関係が乱れたら悪い人なんだろう

恋愛に規則ってあるんだろうか

同時に二人の人を好きになることは可能なんだろう

自由な恋愛ってそんな罪深いことなんだろう

あの娘と彼はそれを全部成し遂げたある意味革命児？

彼らは恋愛の無法者？

彼は心移りしやすかったけど優しかった

彼は心移りしやすかったけど親切な人だった

本当の優しさってなんだろう

優しい言葉をかけてくれることなんだろうか

彼女だけを大切にしてたら優しいって言えるんだろうか

優しさに大切なのは言葉なんだろうか

大切なのは行動じゃないだろうか

言葉は必ずしも必要じゃない気がする

さりげなく体を引き寄せて、走ってきた車から遠ざけた彼

本当の優しさってこういうことのような気がした

心移りしやすいけど良い奴な彼と
悪女_こだけど本当は良い子なあの娘

二人は恋愛の無法者

自分の気持ちに正直な自由人

ある意味冒険者

別の意味羨望の的

二人は恋愛の無法者

ある意味恋愛上手で成就しやすく

別の意味恋愛下手で崩壊しやすく

二人は恋愛の無法者？

本当は“良い人”

【思考】

戯曲『タワゴト』（前書き）

真面目なんだかふざけてるのか分からない詩の戯れ二本立てです（苦笑）

【思考】 戯曲『タワゴト』

【戯言其のき】

～～悪夢ノ続キ～～

誰もが寝静まる丑三つ時

その一時間後

漫画に描いたような烈^えしい悪夢で目を覚^はます

さらに第二の恐怖

驚愕の瞬間が身に降りかかる

布団の上に『赤の他人』

ではなく

天井から舞い降りてきた『天使』

でもなく

ほわんほわんほわん～～と脳裡に降ってきた戯言の雨 凸凸凸訥・
・・・

第三の恐怖

それを文字にせずにはいられない

●
●
●
●
●
●

【戲言其の弑】

高級葡萄酒

彼の年齢とイメージがようやく今重なった

若き日から年代物の葡萄酒ワインのように濃厚だった果実の液体がよつや
く今、本物の葡萄酒としてその名が瓶に刻まれた

その味がわかる女の数はこの世界にいかほどか

舌で転がし堪能して、講釈できる人間の数はいかほどか

ブランド
価値も分からぬ高級品好きな女は大勢いて、その味を堪能しようとする
コルク
瓶の栓を抜こうとするだろう

しかし一時的な歓喜と至福の陶酔が冷めれば、瓶の栓コルクが開いた状態

で放置して、気が抜けた色水へと変質させてしまっただろう

彼という高級葡萄酒は時を越え、河を越え、世界を巡り、より多くの人々に嗜好されるに相応しい

濃厚で味わい深く

熱と情の燃えるような赤色を連想させる彼という高級葡萄酒に
乾杯

【恋愛】

蒼穹

風に乗せて

（前書き）

清涼飲料水のCMソングをイメージして描きました。

【恋愛】

蒼穹 風に乗せて

風が軽くあつて、雲は少しあつて、透けるような空は
どこまでも行けそうな蒼穹^{あお}

両手ひろげて空気いっぱい吸い込んで、風に乗って空を飛んでいく
ような気持ちで

君に思いを伝えたい

隣りにいてそれ以上近付けない遠回りな意思表示

「おはよう」すらろくに言わない無愛想な自分

隣りにいてもその横顔すらチラ見できない“引っ込み思案”は

笑わせるのが好きな君が、ふざけたときに触れたその手に完全茫然
自失状態

何も始まらない隣り同士

穏やかに過ぎ去っていく無情とも思える日常の日々

何かを変えたいのに何も変えられない、動き出せない自分

また明日も会えるから、隣りにいるからって安堵が、前進したい気
持ちを思い止どまらせている

窓に差し込む陽光は淡く、空は透けるような蒼穹^{あお}

白いカーテンを風が揺らし、ゆるやかなスイングで踊り出す
閃く白と透明な風の饗宴^{スイング}

前髪が揺れた

くすぐったいぐらいの微かな風に

あの蒼穹そうきゅうの下に立って、あの陽光を全身に浴びて、こんなふうに心地よい風に乗せて届けたい
本当の気持ち

季節が変わるごとに風も変わり、ともに去りゆく尊い日々
明日も君はそこに座り、無愛想な自分こいつと隣り同士
何も始まらない二人
限られた時間の中に埋もれていく小さな恋心
きつかけがなければ動き出せない臆病者の自分

ふいの風

くすぐったいぐらいの微かな風が前髪を揺らした
この風に乗せて心の声を君に届け、その胸に響かせたい
風を感じるみたいに自然に伝わるように

見上げた空は透けるような蒼穹あおぞら
この青春とときを色にしたみたい、どこまでも純粹な蒼穹あおぞら
両手ひろげて空気いっぱい吸い込んで、心の声を風に乗せて届けたい

君にだけ聞こえるように

【恋愛】

蒼穹 風に乗せて（後書き）

文中の「どこまでも行けそうな蒼穹」は天津 的な意味ではありません（苦笑）。空の広大さとそれを見て喚起する心の抑揚・解放感を表しています。

【恋愛】

夏の終わり／ずっと（前書き）

短いのでくつつけて二本立てにしました！ 最後まで読んでいただけることを願います（苦笑）

【恋愛】 夏の終わり／ずっと

【夏の終わり】

今でも目に浮かんでくるエプロンをかけた君の後ろ姿

ぼくは照れくさくて、そわそわしてた

「何か手伝おうか？」って言い出せずに、テーブルに座って頬杖を突きながら

恥ずかしそうにそれを眺めてた

「まだ時間がかかるから」と途中で鍋を弱火にして微笑んだ君を思わず後ろから抱き締めて

君のピアスが揺れた

ある夏の終わり

だいぶ日が落ちて空が薄暗くなった頃、圧力鍋の蒸気機関車みたいな音が消沈して

ようやく完成した料理を君が皿に盛り付けてくれた

はじめて食べる彼女の手料理は、白くて温かい湯気に包まれていた

それを見たぼくの心の中までもが君の愛に包まれていた　きっと

ありがとう 君と出会えて本当に良かった
これからもずっとこの人になりたいと思った
包まれた愛を解く^{ほど}ように丁寧に切り分けて
君が作った料理をばくは口に運び

込み上げる嗚咽・・・

喉に手を伸ばし

空を掻く^くぼく

鮮明に残るその記憶

それは

喉の奥に張り付いたロールキャベツの葉

I N M Y H E A R T

.....
.....
【ずっと】

ずっと前から気になってたこと

アッ　におまかせでフリップを運んでくるあの子は誰ですか？

ずっと前から変えてみたかったこと

仲間由紀恵をボブに、夏川純をばっさりショートに

ちよつとだけ今わかったこと

硝酸には刺激臭があるって広辞苑に書いてありました

ずっと疑問を感じてたこと

犬の後ろ脚が前脚より細い訳

ずっと気にもしてなかったけど

人の足も親指以外は手の指より細かったんですね

全身まっ白い犬に生えてきた黒くて太い体毛

トリミングしてもまた同じところから生えてくる　それはどうして？

それは白髪 inverse ですか？

ずつと言いたかったこと

ずつと言えなかったこと

それをこんなふうに坦々と、もうちよつとだけ唄います

ちよつと勘違いして恥ずかしかつたこと

ゼクシーのCMの歌を聴いて（中澤裕子）が歌つてゐるのかと思つち
やつたこと

だつて、声質が似てゐるから・・・

ずっとまだ氣になつてゐること

沢尻えりかと歌手のERIKKAは同一人物じゃないのですか？

ちよつと氣になること

さだまさしの歌

A H ……

U M ……

その続きはなんですか？

ずっとずっと忘れていて

思い出すと氣になつて

それをこつして吐き出したら

す　　つと心の霞が晴れました

【恋愛】

夏の終わり／ずっと（後書き）

すみません。今回はかなりふざけてしまいました… たまにはこんな
なのも書きたくなるのです

【恋愛】 【戯言】

ある洋服屋の一角で / 「彼ら」のゆくえ（前書き）

前回書いたみたいな「まじめな恋愛ものか」と思わせといて「そんな才子か!？」みたいな手法が気に入ってしまったので、またこんなを書いてしまいました…（苦笑）

【恋愛】 【戯言】

ある洋服屋の一角で / 「彼ら」のゆくえ

【ある洋服屋の一角で】

君はぼくの手の届かない場所へいつてしまったんだね

抱き締めることさえ許されない運命さだめだったと言うのか

今頃君は他の誰かの腕の中に自分の居場所を見付けてしまったのだ
ろうか

せめてこの夏が終わる前にもう一度会いたかった

肌に触れて 重なりあって 触れ合うほどに君を感じたかったのに

昼下がりの日差しの下で

一人、ベンチで煙草を吹かしながら君を想う

明日また二人が出会ったあの店で君を見掛けたら、迷わずぼくは手
を伸ばすだろう

少しずつ秋色に染まっていく景色が物哀しさを誘う

黄昏どきにそよぐ風は別れの唄を歌っていた

ある洋服屋の一角で生まれたひとつの恋

声もなく魅了してやまない君の存在にぼくは魅かれ

魅かれながらも躊躇ってしまったばかりの恋は実ることなく散ってしまった

季節変わりの風に吹かれる枯れ葉のように

今更あの店に行つて君の姿を探しても見付けることはできなくて

ぼくは途方に暮れた

奇跡が起きれば次の夏、また会えるかもしれない

あの店のどこかで

ディスプレイの中の君と

【「彼らのゆくえ」】

もうすぐ夏が終わるんだね

蝉の鳴き声や風鈴が風に揺れる涼しげな音色も

もうすぐ聴こえなくなってしまうんだね

時の中に消えゆく儚いものたち

季節が移り変わり、景色が四季折々の衣装に着替えていくように

「彼ら」の時代もとめどなく変化を求め、次々と異なる色に塗りかえられていく

「彼ら」はその流れる時代の波の中を彷徨い

その変動の中へと消えゆくのだろうか

浮力を持たない栄光は海底に沈み

沖にたどり着いたものはもう一度地上の陽を浴びて

お茶の間を沸かす

嗚呼、あと何クール「彼ら」の姿を観られるだろうか

わたしの大好きなあの

(芸人)

【恋愛】 【戯言】

ある洋服屋の一角で / 「彼ら」のゆくえ（後書き）

なんだよ、またそんなオチか！？って思った方すみません。（；、
、）「ある洋服屋：」はお目当ての洋服を迷って買わずにいたら
店頭から姿を消してしまった。売れちゃったよ！シヨツクうう…み
たいな話を大袈裟な恋文みたいに書いて、最後は意味が分からない
と「どんな意味？？」ってゾクゾクとするような書き方をして遊ん
でみました。「彼ら」のゆくえ」はタワゴトです（汗汗）

【恋愛】

季節〰置き去りにされたもの〰

夏に置きざりにされたあたしの恋心

タンスの中に閉じ込められた夏心

七夕祭りの花火大会で着るはずだった浴衣と

デートで着るはずだったワンピースは

タンスの中で出番待ちしてた

浴衣はかしまった育ちの良いお嬢さんみたいに
引き出しの中で去年に畳んだ形をキープして

今年流行りのタイプでかわいくて買ったワンピースは
うちの中で一度打ち合わせみたいなおファッションショーをやったきり
ハンガーで吊されて

どちらもデートで御披露目されることはなかった

待ち合わせ場所に彼が来ないことを知らない無垢なお嬢さんみたい
だった

さみしいけど夏は終わった

少し肌寒い今日は衣替え

青地に黄色い花を散らしたお嬢さん

白いノースリーブのお嬢さん

台本は書き替えられたから

あなたたちの出番は来ませんよ

さみしいけど役者交替

秋物にメンバーチェンジ

長袖カットソーを前に出し

浴衣を下段の奥にしまうあたし

夏を名残惜しみながら

吊されたワンピースも

秋物冬物さらにその端まで寄せた

寄せても返ってくる夏心

あたしの中でいつたりきたりで終われない夏

夏が過ぎて秋が来て冬を越してさらに春を越す

その次の夏まで二人は出番待ち

遠い遠い夏の季節

前の季節に置き去りにされた恋心を忘れるためにあたしは

それぞれのタンスの蓋を閉めた

【恋愛】

季節〰置き去りにされたもの〰（後書き）

今回、タイトルが微妙にしっくりこないであります・*∴・∴・
°（・エ・人）・∴・∴・
〇 *
〇

【恋愛】

青山で待ってるわ（前書き）

青山テ マの駄洒落から展開してできたラブソングです。（内容
はギャグではありません！）

【恋愛】

青山で待ってるわ

ふとした瞬間あたしのことを思い出したらちよつと出かけてみて
竹下通り 表参道 行き着く場所は青山通り
多分あたしはそにいる
きつと青山で待ってるわ

あたしの番号かアドレスがケータイに残ってたなら
気軽にちよつとメールかTELでもしてみてもいいから
嫌いになつて別れたわけじゃないから
友達として

冷たい風と色付く木の葉が秋の訪れを報せてる帰り道の夕暮れ
枯れ葉色のあたしの心は黄昏^{ハート}に震えてた
でも淋しいからじゃないよ
秋を感じてるだけなんだよ
同じ景色を見せてあげたいな
そんなことを思ってただけ

久しぶりのブログ更新気付いてね
願いを込めて画像添付して

「カメラ買ったよ」

「一眼レフだよ」

「紅葉見〜付けたッ」って

そうやって撮り続けてみて分かったよ
カメラは瞬間を閉じ込めて過去にするだけの物じゃないって
手をつないで二人で歩いた青山通り
裏青山の隠れ家レストラン

帰り道から見た明治神宮

二人で同じ時間を過ごした場所の風景に

シャッターを切る度に過去がよみがえってくるの

でも淋しくなんかならないよ

みんな良い思いばかりだから

もし青山で景色を撮ってるカメラ女子がいたらあたしかもしれない
見掛けたら声をかけてね

本当はまだそれを
待ってる

景色の中にあなたがいる瞬間を撮りたいと思ってる
でも言えないよ
今のあたしたちは“友達”だから

でもね、もしあなたがふとした瞬間あの頃を思い出したら出かけて
みて

あたしはきつとそこにいる

日付も時間も場所も一致して二人がばったり再会する奇跡
そんな小さな奇跡を期待して景色を撮ってるカメラ女子
そんなあたしはきつとあなたを求めて
青山で待ってるわ

【恋愛(X'mas)】

S p e c i a l n i g h t i n S p e c i

「ザ・クリスマスソング」(英語)をバックミュージックに流しながら作りました。(内容はまったく異なります)

二人の薬指には去年買ったお揃いの指輪

乾杯したグラスの音が祝福の鐘になる

去年と同じ場所でこうしていっしょに晚餐できること

聖夜に一番いっしょにいたい人といられることを歡び

今夜は惜しめない愛を捧げ合おう

誰の目も気にすることはない

今夜は特別な夜だから

恋人たちはみんな二人の世界のロマンスを見ている

サンタがそれを見てはずかしがって隠れてしまっても

心配はいらない

代りにぼくがサンタになって君にプレゼントを届けてあげるから

遠慮はいらない

大胆にも少女にもなって今夜を楽しもう

惜しめない愛を捧げ合おう

年に一度のクリスマス・タイムは優雅な幻

長い夜を瞬きの刻で終わらせないように

大切にゆったりと過ごそう

そして一夜のファンタジーを永遠の愛に変えて

二人の胸に刻もう

その魔法が解けるまでこの夜を楽しもう

この夜は特別な夜だから

日常の全ての喧騒を頭の中から追い出して

二人のロマンスを奏でよう

ゆっくりゆつくと

明日のことなんてこの時は何も考えなくていい

今夜は瞼が落ちるまで長い夜の譜面に

二人の旋律を刻み込もう

バライド

恥ずかしがることはない

夜空さえも星の瞬きで祝福しているのさ

恥ずかしいなら目を閉じて

キスの時だけ

大丈夫、誰の目も気にすることはない

今夜は特別な夜だから

恋人たちはみんな二人のロマンスの中にいる

彼らにとっては彼らが主役で

ぼくらにとってはぼくらが主役だから

何も気にしなくていいんだ

二人だけのロマンスに埋もれよう

今夜は特別な夜だから

大胆にも少年にもなって夜を楽しむんだ

ぼくのファンタジーは眠るまで続く

君が眠るまでぼくは眠らずに

【思考】 時間をください／夢追人

【時間をください】

わたしに時間をください

あのひとに追いつくため

一年が365日ではとても足りない

あのひとには追いつけない

一日の長さが延びたって、そんなことじゃ意味がないの

みんながちょこっとしか動けない一秒

その間にわたしだけがちょこまか動くことができる

そういう一秒がほしいの

一秒が一秒では足りない

わたしにだけ云10000倍の濃密な一秒をください

そしたらその間にわたしはたくさんのアクションを起こす

だれもが一瞬で通り過ぎていく一瞬を

こつこつこつこつ、いろんなことを積み重ねていく

そしたらいつか辿り着けるかもしれない

あこがれのあのひとが居る高处「たかみ」へ

タイムスリップしてやり直したい、とかそういうことじゃない

やり直す気なんてさらさらないわ

今まで生きてきて経験してきたことを全部リセットしちゃったら、次はどんな自分になってるかわからないし

辿り着いた今の目標「ゆめ」を忘れたくないから

ただとにかくもつと時間がほしい

天才ほど影で努力してたりするじゃない

だったら凡人には努力を实らせるためのハンデが与えられてもいいじゃない

濃密な一秒

それが与えられれば、焦っても焦った分だけ足掻けばいい

凡人が築く小さな蟻塚も、天才が建立した楼閣に

云1000倍密度の一秒を使えばそこに近付けるかも知れない

.....

【夢追人】

やりたいこととできることがどうしてこつも食い違う？

人と同じ分だけ何かやったってちつとも実る気配すらない

されど、残酷にも人それぞれ人生の制限時間「タイムリミット」つてのがあって

さらにさらには、そうやって焦れば焦るほど高速でそれは減少していく

なるようにしかない？ それじゃ何も変わらない

一度きりの人生、やらず終いでは終わらせたくない

この空回りどうすればいい？

希望の光よ、何処にある？

勝利の女神よ、こつち向いて微笑め

こつこつやればいいんだろ？

小さな一歩

アントの一步

夢追人

【思考】

真っ白な一日（前書き）

注：今回は負念全快愚痴愚痴詩なので、体調を崩してる方はお気を付けください。

【思考】 真っ白な一日

永遠なんて言葉は信じない

昨日までの関係が

ある日、突然ぶつつりと切れたりするんだから

延々と滑らかな起伏の線上を綴る日々でもよかった

退屈でもよかった

それがある日、急に真っ白な一日に変わった

最初からそんな人はいなかった

それも切ないけど

去って行かれた後の淋しい気持ちがあなたに分かる？

当たるはけ口のない絶望感がそこにプラスされるのよ？

孤独の沼に墜ち

過去の映像が脳裏にちらつく

もう終わリダ・・・

今日から

真っ白な一日

真っ白な一日

真っ白な一日

ENDLESS...

【思考】

真っ白な一日（後書き）

これの意味を理解してくれる人がいたらすごいかも…

【恋愛】

新しい風が吹く頃に（前書き）

「舞い降りた天使」というフレーズは以前から使いたかったフレーズでした。使いたいフレーズから詩を作ることが多い私。先に使っている人は多そうですね。某有名芸能人も最近使ってたような・・・。

【恋愛】 新しい風が吹く頃に

新しい風とともにに舞い降りた天使

生まれ変わったぼくを新しい記憶の中に刻み込んで

ともに過ごした学生時代、交わした言葉は『授業のこと』か『テレビの話』

薄く彩られたその風景の中に『未完結な恋』を一つの完了形と
してしまい込んで

この時まで思考の片隅に眠らせてた

恋の続きをここから始めよう

はじめてのスーツはグレー

こころは日だまりの色

真新しい黒い革靴で

ぼくはこの日から

新たな一歩を歩き始めた

過去のぼくは初心^{ついで}な少年

気持ちを伝えられず、思い出が一つ減った修学旅行

好きな女子^こと一緒にの班になれなくて

本音を言えなかった夜の打ち明け話

好きでもない別のクラスの女子の名前を言った

あの頃のぼくはもういない

今ならちゃんと話せるよ

目を逸らさないで

心を逸らさないで

新しい風とともに舞い降りた天使

新しい風が吹く頃にぼくの前に現れた

大人になったぼくと君のいるもうひとつの風景が広がっていく

新しい恋の香を漂わせる

心地よい風の中で

【恋愛】

新しい風が吹く頃に（後書き）

今回は新社会人が初出勤の道中、学生時代恋していた女の子にばったり遭遇、もしくはは見かけ、心の奥に眠らせていた恋心が再び目覚める、という設定で書いてみました。伝わったでしょうか…??

「イメージ」

今は亡き人よ（前書き）

自作のワンシーンをイメージして作ったものです。全作読んでる方は分かると思います。気付いてくれたら嬉しいな・・・

なんか「私の〴〵お墓の・・・」みたいですが、こちらは遺された人が死去した人へ送る詩なので逆パターンです。

「イメージ」

今は亡き人よ

今は亡き人よ

あなたは今、何処にいますか

あの空の彼方

それとも土の中

わたしは今、故郷ふるさとの丘の上に立ち

風を感じています

見渡せるこの景色をあなたは覚えていますか

今は亡き人よ

あなたはわたしと暮らしてしあわせでしたか

わたしはあなたが心から笑う姿を見たことがありますでした

あなたが笑うのはわたしがピアノを上手に弾けたときでしたね

あの時のようにわたしがピアノを弾いたら

あなたはまた笑ってくれますか

今は亡き人よ

今となつてはあなたが何を思っていたのか聞くことはできませんが

わたしはこれからもあなたに贈ります

あなたがわたしに託していったピアノの演奏を

いつかあなたのもとへ逝くその日まで

【思考】

戦場のG（前書き）

『G』はのしかかる重みをイメージしています。

【思考】

戦場のG

ゴールデンタイムが過ぎてゆく

また今夜も眠れそうにないわ

朱葡萄酒を吞んで喉を潤して

その朱い沼に溺れたいわ

駄目よ

明日わたしは戦場へ向かう

周りは味方

それでもそこは戦場

唯一ヒトでなきものがわたしを惑わす

逃げ場のない一本道で

そいつが悪の元凶

高速で動いてわたしを惑わす

兵隊を潜伏させて

わたしたちの目の前を堂々と通過しようとする

目を誤魔化すことが得意なそいつらは

名付けて『キラーG』

そいつらがどこかに隠れているかもしれない

“見逃すな”

神経の糸が切れそうなほどピンと張る

緊張感のG

通過 通過 通過

何事もなく一般市民が通過してゆく

次か？ 来るか？ その次か？

“やつらが見えない”

焦慮のG

“やつらを通してはいけない”

責任感のG

わたしは身を焦がす焦慮

SHORYO

【思考】

戦場のG（後書き）

最後が何故英字なのか？はなんとなくです…

【？】

CALLING（前書き）

ジャンル“？”。

内容は読んでお確かめくださいませ（笑）

【?】 C A L L I N G

また来ちゃいました

あなたのもとへ

ドアを開ければココロが弾む

出るか？ 出ないか？

ミラクルプライス

ずるいわ、その笑顔

キラースマイル

期待しちゃうわ

ドキドキしちゃうわ

あなたのコールを待つ間

ずっと、あたしこんな調子？

お願い

このドキドキを感激の鼓動に変えて

今日まであたし、迷ってたの

はたしてこれがあなたのおメガネに叶うかしらって

どうするかひたすら悩んでたの

初めてここを訪れた日からずっと

数ヶ月もね、長いでしょ？

あなたは目利き

どんなのが好み？

派手なのが好み？

清楚なのが好み？

あたしは今日、ガーリーなものとカジュアルなのをあなたにお披露目
しに来た

期待してるからね

だから、お願い、お願い、お願いッ

あなたがあたしの運命を握ってるの

1 2 3
...
Whoa!

ゼロが並べば

3 2 1
...
Low tension

ゼロが少なければ

1 2 3 4
...
Yes!

もっと上げて

3 2 1
...
Calling!

あなたからの良い返答を待ってるわ

【？】

CALLING（後書き）

リサイクルショップに行ったという設定です。文中の1、2、3というのは桁のことです。1桁2桁…。ちよつと下品かな。ははは…（最後の3、2、1は店員さんから声がかかるまでのカウントダウンです）

店員さんのスマイルにやられたゝってところから恋愛色もチラつかせてます。誰か、気付いたかな…

【思考】

Shining star&Dark star(前書き)

どこまで伝わるか分からないので、後書きに注釈を加えました。

【思考】

Shining star & Dark star

この空で瞬くこともできずに浮遊している無数の星たち
流れ星に羨望を

一筋のその瞬く時間にさえ羨望を

空はこんなに暗かった？

夜はこんなに永かった？

夜を重ね

夜を重ね

瞬けない星たちは

その存在すら認められず

夜空に溶け

瞬く星たちの背景となる

空駆ける Shining star

またひとつ空に光り

追いかける Dark star

闇を泳ぎ

闇を泳ぎ

瞬ける星になりたくて

挑み続ける戦士たち

d a r k s t a r

瞬けない星たち

理想は

一等星、二等星、三等星……

瞬きを求め

瞬きを求め

誰よりも瞬ける星になりたくて

頂点を目指し続ける

飽くなき挑戦者たち

D a r k s t a r

愛すべき亡者たち

“ S h i n i n g s t a r & D a r k s t a r ”

報われない者たちの悲壮曲

【思考】

Shining star&Dark star (後書き)

瞬けない星たち 才能を認められないひと

流れ星 時のひと、一発屋

夜、闇を 努力が報われず、もがき苦しむ様子

【恋愛】

蝶と花（前書き）

社交界の会場に現れた魅力的な男性。彼の気を引こうと女性たちは色目を使い……

（そんな状況を思い描いて作りました）

後書きに注釈あり

【恋愛】

蝶と花

野ばらやあざみが群れ集う野原に咲く

うるわしき一輪の花

まことに白き花びらのドレスを風に揺らして

蜜をうばう蝶の訪れを待つ

かぐわしき花のかおりが野原を流れ

その甘いかおりに誘われ舞い降りた1頭の蝶

空より青き翅をはばたかせ

かぐわしき花を探し求め野原をさまよう

ざわめく野ばら

ざわめくあざみ

花々は一斉に香気をふりまき

かぐわしき花のかおりはそこにうまれ

惑わされた蝶は野原を揺れさまよう

緑の野に咲く艶やかな赤や黄や紫の花々

そのなかに咲く一輪の白い花

まことの白さに惹かれ

蝶はそこに舞い降りた

【恋愛】

蝶と花（後書き）

あざみや野ばら、花々 女性（派手派手しい）

一輪の白い花 清楚な印象の女性

蝶 男性

まことの白は貞節。青は誠実さを象徴。（なんとなく）

（言い訳）

雑草ばつかで華やかに見えない と思われたかもしれませんか…ど
うか華やかな風景をご想像ください。

【子守唄】

魔笛くダークマザーグースく（前書き）

マザーグースをイメージして、ホラーな唄を作ってみました。

【子守唄】

魔笛くダークマザーグースく

ガタガタガタガタ

ガタガタガタガタ

大地が家が振動する

今夜も彼奴がやってきた

良い子も悪い子も布団の中にもぐりこみ

ガタガタガタガタ震え出す

寝ている子はいないか？

晚餐を始めるぞ

ビリビリビリビリ大気を震わす低い声が

耳から入って脳みそを揺さぶる

隠れたって無駄さ

やつは魔笛を持っている

ピー

……

それを吹き鳴らし

こども・若者を起こしにかかる

それは年老いたものには聞こえない

こども・若者をいたぶる音色

耳に纏わり付き

安らかな眠りを妨げる

頭を揺らせ

頭を揺らせ

彼奴はそう囁き

寝ている者の夢の中まで追いかける

頭を揺らせ

頭を揺らせ

脳みそが泡立つまで

そしたら美味なカクテルの出来上がりさ

ピー

……

その音色は明け方まで続く

笑い声とともに

彼奴が消えるまで

【子守唄】

魔笛くダークマザーグースく（後書き）

あの奇妙な世界観が出せてたかな……と心配（――）
文中で「頭を揺らせ」と言っているのは、笛の音がうるさくて「いやだいやだ！」と頭を振っていやがれという意味です。

【恋愛】

同じスピードで

二人の呼吸はいつもぴったり

手を繋いでいなくても同じ速度で歩いてく

カートを押しながらショッピングするその姿は

付き合って 年目(?)

とくにお洒落な格好もしてなくて

地元のスーパーでラフにラブラブぶらぶらショッピングって

なんて自然でさわやかな光景なの

あんな風に歩く速度は同じほうがいい

彼女に合わせてくれる人がいい

ときどき振り向いて彼女を気にかけてくれたらベスト

躓いた時は手を差し延べて

困ってたらやさしく声をかけて

重たい荷物は持つのを手伝ってくれるのが理想

たとえば、手を繋がないで歩く時でも

たとえば、そばにいない時でも

心の中にいつも彼女がいるなら

何か気付いてあげられるはず

同じスピードで歩く二人は手を繋いでなくても

心と心を繋いでみたい

それってそれってま・さ・に・理想！

彼女が息を切らすことはない

彼女が立ち止まったら彼も立ち止まってくれから
そして並んでまた歩き出す

同じスピードで

【？】

「死ぬための理由」「生きるための理由」

言いたいことも言えないまま

伝えたいことも伝えられないまま

やりたいこともできないまま

わたしは今日も生きている

わたしはなんで生まれてきた

わたしは誰のために生まれてきた

わたしは何をするために生まれてきた

わたしに生まれてきた意味はあるのか

あと二年でわたしは死ぬ

あと二年でわたしは消える

あと二年ですべてが終わる

それから4年の月日が流れた

言いたいことは山ほどある

叫びたいことは山ほどある

そのすべてを言葉にできない苦悩を抱えている

話したくても話せない苦悩を抱えている

もうすぐ三ヶ月

もうすぐ半年

気がつけば、もうすぐで一年が終わろうとしている

わたしは言いたいことも言えないまま

まだ生きている

わたしはいままで何をしてきた
いま死んだら何も残らない
わたしの生きた証はどこにある

これを書き終えたら

この物語を終わらせたら

それから4年の月日が流れた

死ぬ日のために書いてきた物語が

終わらない

もつと書きたい

その続きを描きたい

それまでは・・・・・・・・

いつのまにか

“死ぬための理由”が

“生きるための理由”に替わっていた

【恋愛】

エンキョリ（前書き）

イブにはこっちな？と思ったのでこれを先に持ってきました。

付き合ってからもうすぐ三度目の冬を迎えようとしている
その間にあなたと会った回数は数えきれるほどではない
わたしたち本当に付き合ってるの？

最後に改札の前でしたハグの記憶が遠い

息が白くなればなるほど不安になっていく

次はいつ会えるんだろうって

体も心も震えるの

側にあたためてくるひとがいないから

わかってるよ

それを強く求めちゃいけないってこと

そうやってわがまを言ったら駄目になっちゃってこと

あなたを困らせるだけだから言わないけど

本当は

“会いに来て”って言いたいよ

会いたさが募れば募るほどあなたのことが頭に浮かんでくる
声とか

いつも付けてる香水の匂いとか

誕生日にあなたがくれた薬指のリングに触れても

それだけじゃさみしさはなくならない

彼氏という人を見るたびに

目頭が熱くなって今にも泣き出しそうになる

これ以上空気が冷たくなったら
寒さで凍え死んでしまいそう

“エンキョリ”って辛いね
みんなさみしいときどうしてるんだろう

あなたの声は携帯に入れた音声メモで聴けるけど

声だけじゃ足りないよ

もっとあなたを感じたい

あなたのハグが恋しいよ

恋しいよ

あなたを感じたくて

香水を染み込ませたタオルハンカチを顔に当てた

ハグされたときの香がする

いつも付けてる香水の

あなたの芳香^{におい}

この香いつまで持つかな

さみしいよ

もう言ってもいいかな？
まだ言っちゃダメかな？

“ 会いたいのよ ” って

【恋愛】

好きになりたい（前書き）

「エンキョリ」のアンサーソングではありません。

【恋愛】

好きになりたい

好きになりたい好きになりたい好きになりたい
あのひとのこと

好きになって好きになって好きになって
あたらしい恋はじめたい

楽になりたい楽になりたい楽になりたい
今の恋を終わらせて

あのひとのこと 好きになって好きになって
幸せな恋をしたい

はじめてコクられた

同じ学校のひとに

なんとなく態度で気付いてはいたけど
突然で驚いた

いきなりイエデンにかけてくるから
親が出ちゃって少し気まずかったよ

ケータイの番号知らないから仕方ないんだけど
あたしは一応カレシいるからって

あの時は断っちゃったけど

ほんととは今のカレのこと好きなのかわかんなくなっちゃってるんだ
よね

思いやりがないっていうか

束縛がひどいっていうか

もう疲れちゃった

男と話すなって言うし

メールボックスはいつも全部チェックさせろって言うし

明け方近くに来たメールに返事しないと怒るし
おかげで寝不足になって
バイト中居眠りして怒られちゃうし
ほんと最悪
付き合ってから溜め息ついてばっか

手はつなぐし キスもしてるけど
ほんとに好きなのかわかんない
なんか形だけみたい

h a a
…
また溜息が出た

h a a
…
憂鬱

ふと頭に浮かんだのは“あのひと”の顔

好きになりたい好きになりたい好きになりたい
あのひとのこと
好きになって好きになって好きになって
あたらしい恋はじめたい

学校が終わったら また駐輪場にいるかな
今度はあたしのほうから声かけてみようかな

なんて言おうか考えてたら

胸の鼓動がアップテンポになってく

好きになったかも 好きになってるかも もう好きなのかも

あのひとのこと

あのひととならどんな恋ができるのか知りたい

あのひとと恋がしたい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6158g/>

仮 > 詩

2011年12月25日12時49分発行